

西国第六番 壺阪山

御本尊／十一面千手千眼観世音菩薩 開基／弁基上人

真言宗 南法華寺（壺阪寺）

一つ一つに感謝

山主 常盤勝範

壺阪寺のご本尊十一面千手

が昭和36年（1961）に

観世音菩薩は、眼病に靈験が

境内地に開設され、さらに令

あると古くから信仰されてい

和3年（2021）に壺阪の

ます。特に、当寺に伝わる盲

麓高取町清水谷に新築移転さ

目の沢市が参籠して開眼した

せて頂きました。

お話が、人形浄瑠璃、歌舞伎、

幼少の頃或いは中高年に

浪曲で演じられ、観音さまの

なっってから眼に障がいを持つ

靈験がより広く知られるよう

ようになつた方々が様々な人

になりました。その眼の観音

生を歩みながら、壺阪観音さ

さまのご縁で、わが国最初の

まの御手に導かれて、「慈母

高齢視覚障がい者（盲老人）

園」に入園されます。入園さ

専用の老人ホーム「慈母園」

れる盲老人の皆様は、入園利

用すると言わずに「ホームに
辿り着いた」と言われます。

眼が見える者は、自分がどの

ようなホームに身を委ねるの

かを見て確かめてから入園利

用しますが、眼の不自由な

方々は、様々な情報をつなぎ

合わせて、自分なりに想像判

断して、晴眼の者には判らな

い大きな決心されての入園利

用が、「辿り着いた。」という

表現になると思います。また、

ホーム内で盲老人とお話しす

ると、「今日のあなたは元気

そうですね。」それに対して

「どうして解るのかですか。」

と問うと、「声にも表情があ

るのですよ。」と教えて頂き

ます。声の抑揚、大きさによっ

て人の気持ち、体調を推し量

りながら会話される様子を学

びながら、私もわかりやすい

言葉使い、声の出し方の大切

にしながら、盲老人の方とお

話をさせて頂いております。

どうしても眼が見えること、

声を出せることが、当たり前

と思つて生活してしまう私で

すが、一つ一つの体の働きに

ついて心から感謝しながら、

人と接していかなければなら

ないことを「慈母園」ではい

つも教えてくれます。

西国巡礼は長い道です。そ

の道中、自分が当たり前だと

思つていたことに、改めて感

謝する時間を持つて頂き、観

音さまの御心に触れて頂けれ

ばと思います。

